



特集 歯科口腔外科を開設しました

A

歯科口腔外科
Oral & Maxillofacial Surgery



Contents

- [特集] 歯科口腔外科開設 p1～2
- 医局だより p3
- 外来診療体制表 p4
- 薬剤部だより p5 p5
- 看護部だより p6
- 医療技術部だより 放射線室 p7～8
- 災害拠点病院としての役割 p9
- トピックス p10

vol. 11
2019. 03

歯科口腔外科は、

「歯科口腔外科」と「医科歯科連携事業」

両輪を軸に運営していきます。



歯科口腔外科 高宗 康隆

〔専門領域・資格〕

日本口腔外科専門医

歯科医師臨床研修指導医

日本口腔科学会認定医



当院の歯科口腔外科の役割とは

当診療科は、歯科口腔外科と医科歯科連携の両輪を軸に、運営して参ります。地域の歯科・医科の医療機関等との連携も図ってまいります。

歯科口腔外科

歯科感染症、口腔粘膜疾患（白板症、扁平苔癬、カンジダ症）、口腔良性腫瘍（エプーリス、エナメル上皮腫）、顎口腔の嚢胞、顎関節症、唾液腺疾患（口腔乾燥症、シェーグレン症候群）、舌痛症、口腔心身症、埋伏歯（智歯・過剰）抜歯、小帯手術（上唇小帯異常、舌小帯異常）

医科歯科連携

周術期口腔機能管理、MRONJ、ドライマウス、糖尿病、低体重出産、誤嚥性肺炎、接触嚙下障害、心臓・血管系疾患、フレイル、認知症、睡眠時無呼吸症候群



歯科口腔外科の診療体制

外来診療曜日：火曜日、金曜日

初診 午前9時～11時

診療時間 午前9時～11時30分

午後2時～4時30分

※金曜日は全身麻酔の手術を行う場合がありますので、その際は外来の予約制限を行うことがあります。

完全予約制

受診には紹介状が必要です

特集

歯科口腔外科を開設しました

「ご挨拶」

この度、阿蘇医療センターにおきまして、歯科口腔外科を開設することになりました。

当院の歯科口腔外科の役割は、歯科口腔領域の特殊な疾患や外科治療と院内の患者様（他科入院中）の周術期口腔管理や口腔健康管理に対応することが主な業務となります。

本院は平成26年4月以降、波野診療所と統合・共有化が図られるようになりました。

そのために歯科職員も当院歯科口腔外科と波野診療所歯科を兼任することになりますので、診療を毎日することができず、診療日が制限されることとなります。

また、当面歯科医師1名・歯科衛生士1名のみでの診療体制です。で、外来患者様への対応が十分行き届かない点多々あるかと存じますが、ご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

現在、阿蘇圏域において入院管理下での手術等の診療を行っている口腔外科施設はなく、当科がその役割を担うことで地域医療に対するバックアップになるものと考えております。

地域の先生方と力を合わせて地域医療の充実に貢献していきたい所存ですので、よろしくお願いいたします。



医療設備のご紹介

・パノラマ・断層撮影X線診療装置

従来のレントゲンより少ないX線照射量で撮影できます。



また、最新の画像認識技術により患者様の撮影時の位置のずれを修正できますので、楽な姿勢で撮影することができます。

・口腔外バキューム

クリーンな院内環境を維持するために、治療中に発生する粉じんなどを吸引する口腔外バキュームもユニットに設置しています。



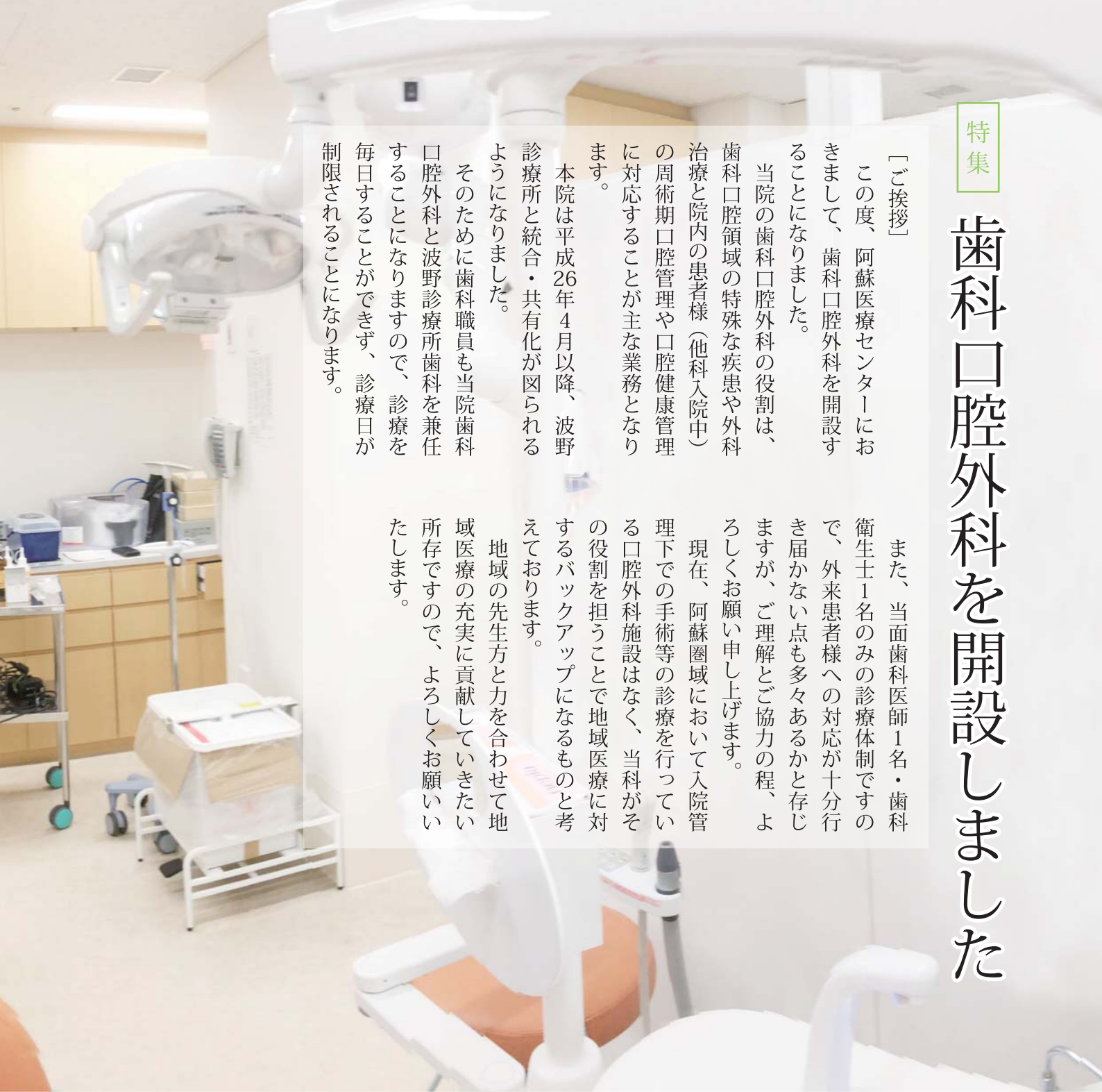
・オペレーターPROプラス

レーザー治療は、ほとんどのケースで出血や痛みもなく麻酔注射の痛みや不安感の少ない治療ができます。菌を除去したり、歯周ポケットのプラーク（歯垢）・歯石の除去、また歯周病の炎症によりダメージを受けた組織の早い回復も期待できます。



・ピエゾサージエリータッチ

従来の回転器具とは違い、超音波振動を利用することで骨や歯を切削する手術器具です。主、に外科手術（拔牙、骨切り術）に用いられ、大きなメリットがあります。



神経内科に「脳」がついて 脳神経内科になりました



脳神経内科部長
本田省二 医師

我が国の神経内科医と神経学研究者を会員とする臨床系医学会である日本神経学会は、会員数約8000名を擁する学会で、神経内科医を名乗るおそらくほとんどの医師が所属していると思われます。

2018年、標榜科を「神経内科」から「脳神経内科」に変更することが学会によって決定されました。従来から、診療科の名称が紛らわしく、いまだに精神科、精神神経科、神経科、心療内科などとよく混同されます。これは、1902年に神経学と精神医学の研究者が共同で日本神経学会を設立した。という歴史的背景とも無関係ではないかもしれません。学会設立当初は、神経学と精神医学の関係者はほぼ同数で、学会誌論文数や学会理事数まで同数であったそうですが、次第に神経学医師が減少し、日本神経学会は1935年に日本精神神経学会へと改称されました。1960年には神経学医師を中心に、神経学を専門とする日本臨床神経学会が設立され、現在の日本神経学会につながっています。

神経内科は脳や脊髄、末梢神経、筋肉の病気をみる内科で、体を動かしたり、感じたりする事や、考えたり覚えたりすることが上手にできなくなったときにこのような病気を疑います。患者さんが訴える症状としては、しびれ、めまい、うまく力がはまらない、歩きにくい、ふらつく、ひきつけ、むせる、しゃべりにくい、ものが二重に見える、頭痛、ものわすれなど多彩で、この原因が、脳や脊髄、末梢神経、筋肉のどこにどのような異常があるかをまず診断します。それがおもに手術で治す病気の場合は脳神経外科、または整形外科を紹介します。脳や脊髄、末梢神経、筋肉には異常がなく、おもに気分の変化や精神的な問題から起こるものであれば、精神科、精神神経科、神経科、心療内科などを紹介することになります。

看板は脳神経内科に変わりますが、中身は全く変わりません。少しでも脳神経内科が認知されるよう努力します。

非常勤医師

なかはら けいいち
中原 圭一
熊本大学医学部附属病院

なかしま まこと
中島 誠
熊本大学医学部附属病院

すぎむら ゆうすけ
杉村 勇輔
熊本大学医学部附属病院

診療科開設のご案内 ～消火器内科～

自己紹介

熊本大学附属病院 消化器内科の川崎剛です。大学病院では主に肝疾患（急性・慢性肝炎、肝硬変、肝癌）の診療に携わっており、阿蘇医療センターでは肝疾患の専門という形でH30年11月より月に1回（第3金曜）に外来を担当させていただくことになりました。月に1回でありますので地域の先生方と連携して治療にあたる事ができればと考えております。精査・治療が必要な患者様がいらっしゃいましたらご紹介の程、宜しくお願い致します。



消化器内科
(肝疾患専門外来)
かわさき つよし
川崎 剛 医師
熊本大学医学部附属病院

消化器内科（肝炎専門外来）について

肝疾患に関しては近年C型肝炎に対する直接作用型抗ウイルス薬（DAA）が使用されるようになり、以前よりも、副作用が少なく、治療期間が短く、高い抗ウイルス効果が得られるようになりました。以前は年齢や合併症のためにC型肝炎に対する治療ができなかった方でも、現時点では非代償性肝硬変でなく、肝がんの合併のない方には積極的に抗ウイルス治療を行っています。また、B型肝炎に関しても以前より副作用の少ない薬剤が処方可能となり、腎機能障害など副作用の出現している患者様には薬剤の変更を行っています。

ウイルス性肝炎はかなり制御がつくようになりましたので、適切に治療を受けていただくためには、まずは肝炎ウイルスに感染していないか検査を受けることが重要です。肝障害のある方ではぜひ一度は肝炎ウイルス検査をしていただき、陽性であった場合にはご紹介お願い致します。

またC型肝炎ウイルスは陰性化後にも発癌のリスクあり定期的な検査が必要ですので、その時にもご紹介お願い致します。ウイルス性肝炎については検査、抗ウイルス治療、治療後の経過観察などで医療費の助成が受けられますので、積極的に活用していきたいと考えております。

阿蘇医療センター 外来診療担当医表 (平成31年3月現在)

一般外来 午前 受付時間 8:30~11:30 (診療時間 9:00~12:00) 急な休診等もございますので、予め電話での
 午後 受付時間 13:00~16:30 (診療時間 14:00~17:00) お問い合わせや「予約」をお勧めいたします。

診療科		月	火	水	木	金
内科	午前	湯本 信也 宮本 誠	宮本 誠	湯本 信也 佐藤 智英	宮本 誠 佐藤 智英	湯本 信也 宮本 誠
	午後	宮本 誠	湯本 信也 (在宅酸素療法外来)		佐藤 英明 (第3木曜)	
脳神経外科	午前	甲斐 豊	甲斐 豊		甲斐 豊	天達 俊博 甲斐 豊
	午後	甲斐 豊	甲斐 豊		甲斐 豊	天達 俊博 甲斐 豊
循環器内科	午前	木村 優一	木村 優一	宮本 信三(第4水曜除く) 老松 優	藤末 昂一郎	宮本 信三
	午後	木村 優一 ※1 (睡眠時無呼吸症候群外来)				
脳神経内科	午前	本田 省二		中原圭一(第1・3水曜) 中島 誠(第2・4水曜) 杉村勇輔(第5水曜)	本田 省二	
	午後			中原圭一(第1・3水曜) 中島 誠(第2・4水曜) 杉村勇輔(第5水曜)		
整形外科	午前		松下 紘三		湯上 正樹	
	午後		松下 紘三		湯上 正樹	
消化器外科	午前			近本 亮	熊本大学病院 (担当医)	
	午後				熊本大学病院 (担当医)	
リウマチ 膠原病内科	午前			中村 正 (第3水曜)		
	午後			中村 正 (第3水曜)		
乳腺内分泌外科	午後			岩瀬 弘敬 (第3水曜)		
糖尿病・代謝 ・内分泌内科	午前					井形 元維
	午後					井形 元維
血液内科	午後					鈴島 仁 (第2金曜)
腫瘍内科	午前				境 健爾 (第3木曜)	
	午後				境 健爾 (第3木曜)	
消化器内科 (肝疾患外来)	午前					川崎 剛 (第3金曜)
	午後					川崎 剛 (第3金曜)
歯科口腔外科	午前		高宗 康隆			高宗 康隆
	午後		高宗 康隆			高宗 康隆

総合診療 (新患・健診) ※3	午前	宮本 信三 甲斐 豊	佐藤 智英 甲斐 豊 湯本 信也	佐藤 智英	松本 久豊 甲斐 豊 湯本 信也	松本 久豊 甲斐 豊 天達 俊博
	午後	宮本 信三 甲斐 豊	佐藤 智英 甲斐 豊 湯本 信也	佐藤 智英	松本 久豊 甲斐 豊 湯本 信也	本田 省二 甲斐 豊 天達 俊博

小児外来 月・水・木・金 午前 受付時間 8:30~11:30 (診療時間 9:00~12:00)
 午後 受付時間 13:00~18:00 (診療時間 14:00~18:15)
 火 午前 受付時間 8:30~11:30 (診療時間 9:00~12:00)
 午後 受付時間 13:00~16:30 (診療時間 14:00~17:00)

小児科	午前	橋山 元浩	榎村 哲生	橋山 元浩	橋山 元浩(第2・3木曜除く)	橋山 元浩
	午後	橋山 元浩	榎村 哲生	橋山 元浩	橋山 元浩(第2・3木曜除く)	橋山 元浩
小児科 専門外来 (受付16:30まで)	午前			上土井貴子 (第2・4水曜) ※2	永田 裕子(第3木曜) 岩井 正憲(偶第2木曜) 澤田 貴彰(奇第2木曜)	
	午後			上土井貴子 (第2・4水曜) ※2	永田 裕子(第3木曜) 岩井 正憲(偶第2木曜) 澤田 貴彰(奇第2木曜)	

診療科		月	火	水	木	金	土
人工透析	午前	湯本 信也	湯本 信也	湯本 信也	湯本 信也	湯本 信也	湯本信也・小野真・秦雄介 (第2・4・5週) (第1週) (第3週)

※1 受付時間 13:00~15:30 (診療時間 14:00~16:00)

※2 原則、小学生までの受入れ。ただし、紹介状がある場合は中学生までの受入れ。

※3 ご来院時に患者さんの症状に対応できる診療科の診療が行われていない場合にご案内致します。

当院は予約診療（原則）です。電話予約の上の来院をお勧めいたします。

薬剤部の体制

当院薬剤部は平成30年度、1名の新人薬剤師を迎え薬剤師6名（うち非常勤1名）・薬剤補助2名で業務を行っています。

業務内容としては、病棟業務・調剤業務・抗がん剤調整業務・医薬品情報管理業務だけでなく、院内の各種チームや病棟の回診・カンファレンスなどにも参加し、他の医療スタッフと連携してチーム医療の中で薬剤師の職能を発揮しています。

調剤業務

医師がオーダーした処方箋に基づき患者さんに使用される薬剤を調剤・鑑査しています。

その際他の薬との相互作用がないか、患者さんの検査値など確認して用法・用量が正しいかなどを確認しています。

当院は電子カルテと連動した処方鑑査支援システム・錠剤自動分包機・散薬鑑査システム・薬袋印字システムなどの調剤支援システムを導入しており安全で正確かつ効率的に業務が行える体制となっています。

注射薬調剤では1患者1施用ごとにセットし病棟への払い出しを行っています。

その際も注射薬の投与量・投与時間や配合変化、投与方法などが適正であるかなどを監査して払い出しを行っています。



病棟業務

各病棟を薬剤師1名ずつで担当し、入院から退院までに使用される薬剤を確認し、持参薬確認・服薬指導・副作用モニタリングなどの業務を行っています。



抗がん剤調整業務

当院では全ての化学療法のレジメン管理をおこなっており、外来化学療法室や病棟で投与する抗がん剤の調整を専用の設備（安全キャビネット）を使用しています。



チーム医療

現在、感染制御チーム・褥瘡対策チーム・栄養サポートチームに参加し高度化する薬物療法を薬の専門職として支援しています。





阿蘇医療センター看護部長
やまべ
山部 かおる

認定看護管理者の資格とは

看護師として5年以上の実践経験を持ち、日本看護協会が定める510時間以上の認定看護管理者教育を修めるか、大学院で看護管理に関する単位を取得して博士課程を修了した後に、認定看護管理者認定審査に合格することで取得できる資格です。

審査合格後は認定看護管理者としての活動と自己研鑽の実績を積み、5年ごとに資格を更新します。

(熊本県では2018年10月時点で65名が登録されています)



潜在看護師再就業支援研修会『職場体験ナイストライ』を開催しました

■潜在看護師再就業支援研修の目的

看護師の資格を持つが、看護師業務に就業していない“潜在看護師”に、最新の看護の知識と技術を学ぶ場を提供し、再就業に対する不安を軽減することで、医療機関等への復職の後押しをすることで、地域の看護師不足の解消に資することを目的としています。

■今回の受講者

今回の受入れは、当院にとって5年ぶりのことでした。受講生の方は、阿蘇地域に在住の方で、とてもハキハキとされ、研修に非常に意欲的に取り組まれていたのが印象的です。

今回の研修後に、研修の感想を頂きましたのでご紹介いたします。



受講生 A様
(60代、女性)

《研修を終えての感想》

長い間臨床から離れていたのですが、医療の世界はどんどん進歩していると感じました。研修では、医療現場の進歩を体験を通じて感じ、大変参考になりました。入院患者さんの年齢層が変わったと感じました。また、居住地域や環境、生活歴に応じて対応をかえている。職場の看護師さんをみて感じました。

病棟は、作業道線が考えられ、電子カルテの恩恵もあり、バタバタした感が見られない洗練された印象を受けました。

《再就職に向けて重視するポイント》

通勤時間は短いほうが良いので、勤務地や立地場所は重要と考えます。あと、職場の雰囲気は重視したいです。

世界糖尿病デー

世界糖尿病デーは、世界に拡がる糖尿病の脅威に対応するために1991年にIDF（国際糖尿病連合）とWHO（世界保健機関）が制定し、糖尿病の予防や治療継続の重要性について市民に周知する重要な機会となっています。

2018年は、11月12日～11月18日の期間、病院のライトアップと院内に掲示をいたしました。

今年のテーマはサルコペニアで、「加齢や病気などにより筋肉量が減少し、筋力低下や身体機能の低下が起こること」を指します。今年の標語「筋肉量 保ってのぼそう 健康寿命」とされ、当院のエントランスホールにおいて、資料を掲示し啓発活動を行いました。



放射線室の体制

当院の放射線室は女性技師3名・男性技師3名で、24時間緊急検査にも対応できるように、各種装置に精通した技師を配置しております。

平成29年度実績としては、CT：4,144件（うち冠動脈CTは105件）、MRI：2,317件、血管造影検査：121件となっており、精査目的などで当院へ検査紹介いただいた件数割合は、概ね10～15%となっております。

また、検査結果については遠隔読影支援システムを導入しておりますので、放射線科専門医による正確かつスピーディーな読影レポートを、検査画像（CD-R作成）と共にご提供させていただいております。検査予約についても、当院ホームページから申込み用紙をダウンロードしていただき、FAXでの申し込みが可能です。

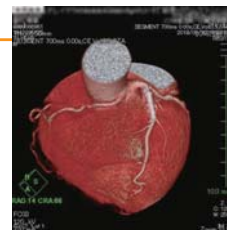
ただし、FAX申込みについては、単純検査のみの受付になりますので、造影検査が必要な場合は通常の紹介状での外来診察をお願い致します。

当院の高度医療機械のご紹介と特徴的取組みについて

CT装置（Aquilion PRIME）



80列のMD-CTで最速0.35秒／1回転スキャンが可能なおことにより、冠動脈CTやCT-angioを含む全身の検査を短時間で、しかも低被曝で行なうことが可能です。

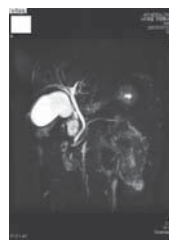


MRI装置1.5T（Vantage Titan 1.5T）



ワイドボア・静穏機構搭載型の1.5T装置です。全身の検査を行なうことができ、心血管から乳腺までの受信コイルを揃えています。また最近では、RI検査やPETで検査したくても熊本市

内までは行けない患者様のために、転移検索や不明熱の原因精査のための全身DWI検査（DWIBS）が有用であるとの報告があり、広く活用されるようになってきています。また、認知症診断支援ソフト（VSRAD）により、早期のAD、レビー小体型認知症の鑑別診断の支援を頭部MRI検査の一連として行うことができます。



MRCP（非造影）



非造影MRA



全身DWI（DWIBS）

X線血管撮影装置



ハイブリッドオペ室内のバイプレーン装置なので、清潔野での造影検査から手術までの流れをスピーディーに行うことができます。循環器内科医

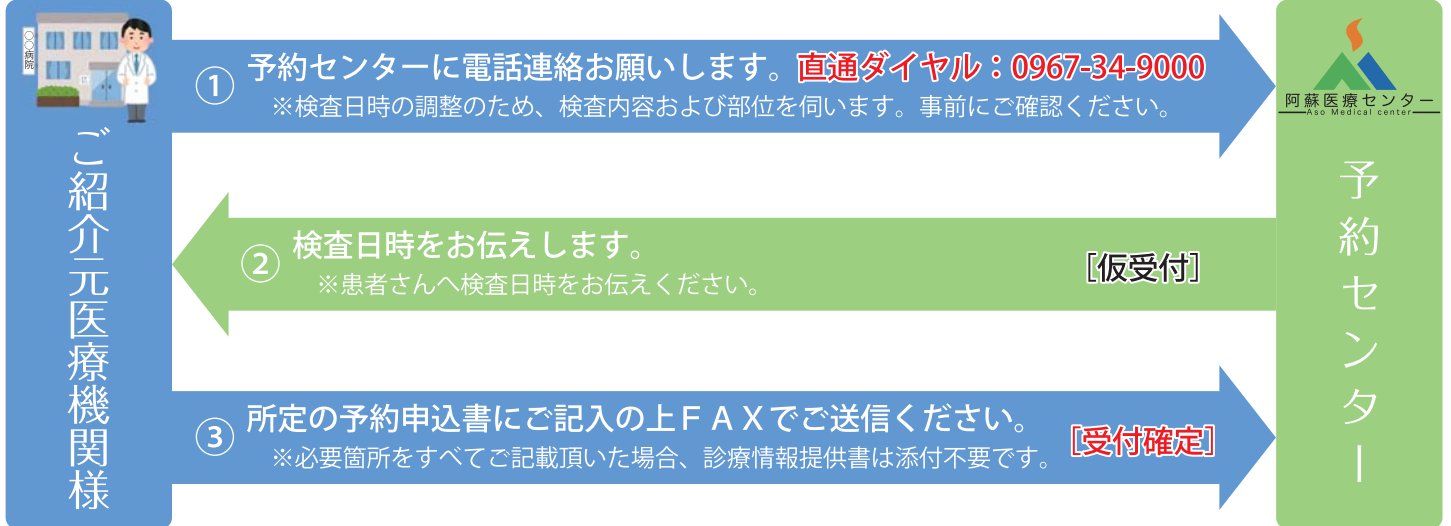
2名体制で、平日は24時間急性心筋梗塞の治療が可能になっており、ペースメーカー等のデバイス植え込みについても行っています。



乳房撮影装置

当院には女性の検診マンモグラフィー認定技師が在籍しており、乳腺エコー・MMGを担当しております。必要に応じてMRIでのフォローも可能です。

非造影検査のFAX 予約申し込みのご案内



阿蘇医療センター検査紹介患者様用 FAX 予約申込票 (兼 診療情報提供書)

検査日時 平成 31 年 10 月 19 日 (金) 　 ご来院していただく時間 午前・午後 2 時 00 分

阿蘇医療センター検査予約受付 予約専用 FAX: 0967-34-9000 予約専用 TEL: 0967-34-9000 【受付時間: 平日 8:30~17:15】	ご紹介元医療機関名 ○○病院・クリニック 診療科 ○○科 医師名 阿蘇 医太郎 電話番号 0967-xx-xxxx FAX番号 0967-xx-xxxx ご担当者名 (○○) 部署 (○○課) 内線 (xxx)
---	---

*患者様情報・検査内容等について

フリガナ	アジ ハナコ	生年月日	
患者氏名	阿蘇 花子 男・女	大 昭 平 XX 年 XX 月 XX 日 (満 XX 歳)	
住所	〒 869-xxxx 阿蘇市 (阿蘇郡) ○○○ TEL (xxxx) xx - xxxx		
当院の受診歴	あり・なし・不明		
検査内容	<input checked="" type="checkbox"/> 単純 MRI <input type="checkbox"/> 単純 CT *MRI の場合 (体内金属 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 不明)		
撮影部位	<input type="checkbox"/> 頭部 <input type="checkbox"/> 脊椎 () <input type="checkbox"/> 頸部 <input type="checkbox"/> 胸部 <input type="checkbox"/> 上腹部 <input type="checkbox"/> 下腹部 <input type="checkbox"/> 骨盤部 <input checked="" type="checkbox"/> 股関節 <input type="checkbox"/> 四肢 () <input type="checkbox"/> その他 ()		
*画像の送付	<input checked="" type="checkbox"/> CD-R <input type="checkbox"/> フィルム *遠隔読影による読影・結果報告 <input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要		
*結果の送付	<input type="checkbox"/> 郵送のみ <input checked="" type="checkbox"/> FAX と郵送		
傷病名	○○の疑い		
検査目的	精査のため		
現在の症状等	○月○日に転倒、当院で加療中です。 画像検査での精査よろしくお願いたします。		

*検査予約は、阿蘇医療センター 検査予約受付 (FAX 0967-34-9000) へ FAX していただくと、後程確認のご連絡をいたします。【受付時間は、平日: 8:30~17:15 土日・祝祭日はお休みです】

注) MRI 検査をお受けできない方 (当院来院時に、検査問診表・同意書をとらせていただきます)

①心臓ペースメーカー (一部の種類は可能ですからご相談ください)・人工内耳・体内神経刺激装置を使用されている方
②その他、体内金属および妊娠中の方、刺青をされている方、義眼の方は対応できない場合があります。
③極度の閉所恐怖症 (ご相談ください)・仰臥位、安静困難な方・鎮静が必要な方・意識障害がある方

注) 本紙による検査予約については、非造影検査 (CT・MRI) のみ承っております。
造影検査をご希望の場合は、外来担当医宛に通常時使用の紹介状を御持参の上、受診をお願い致します。

* 検査内容等に関するお問い合わせは阿蘇医療センター (代表 TEL0967-34-0311) 内線 521 放射線室 までお願い致します

予約申込書記入例

- 予約センターでお伝えした検査日時をご記載ください。
- 貴院の情報及び、ご紹介いただく先生とご担当者様の連絡先をご記載ください。
- 患者様の基本情報をご記載ください。
- 予約センターに申し込んだ検査の内容と部位をご記載ください。
- ご紹介の目的、内容などをご記載ください。この項目が記載頂いている場合は、別途紹介状は必要ありません。

画像記録媒体について

検査結果ご報告の記録媒体は、フィルムかCD-Rどちらかを選択できます。
特段指示がない場合はCD-Rでのご報告とさせていただきます。

結果の送付について

お急ぎの場合は、読影結果が整い次第、FAXでご報告も可能です。
指示がない場合は、郵送のみでの対応とさせていただきます。

※予約申込書は当院ホームページからダウンロード可能です。

お問い合わせ先

- 検査予約の問合せや予約日時の照会について
検査予約センター (直通) 0967-34-9000
- 検査結果の未達やその他患者紹介について
地域医療連携部 (直通) 0967-34-0463

災害拠点病院としての役割

平成30年度 総合防災訓練における大規模地震時医療活動訓練

平成30年8月4日に開催された総合防災訓練における大規模地震時医療活動訓練に阿蘇医療センターDMATチームが参加しました。本訓練は、南海トラフ地震を想定し、「南海トラフ地震における具体的な応急対策活動に関する計画」（平成29年6月改定）等に基づく、大規模地震時医療活動に関する総合的な実動訓練を実施して、当該活動に係る組織体制の機能と実効性に関する検証を行うとともに、防災関係機関相互の協力の円滑化を図ることを目的としています。

今回は、四国・九州地方（大分県・宮崎県）を被災地想定とし、全国からDMAT374チーム（約2000人のDMAT 隊員）が参加しています。阿蘇医療センターDMATチームは、崇城大学空港キャンパス北ウィング内航空機格納庫内で航空搬送拠点臨時医療施設（SCU）を設置し、県域を越えた広域医療搬送訓練を行いました。阿蘇医療センターは、阿蘇医療圏の災害拠点病院として、さらなる災害医療の充実を目指し、今後も努力してまいります。



模擬患者が県外から空路（ドクターヘリ・自衛隊機等）で搬送され、熊本県内の三次医療機関へ搬送を行う。また、訓練時には、熊本県知事も表敬訪問されました。

平成30年度 阿蘇火山防災訓練 阿蘇医療センター多数傷病者受入机上訓練

平成30年11月29日（木）に、平成30年度阿蘇火山防災訓練における阿蘇医療センター多数傷病者受入机上訓練を実施しました。

熊本地震時の反省をもとに【医療機関における事業継続計画 BCP: Business Continuity Plan】の要素を取り入れ、平成30年3月に改定した災害対応マニュアルに沿い、「阿蘇山第一火口が噴火し、火口周辺で多数傷病者が発生し、当院が多数傷病者を受け入れる」という被害想定で、「初動・患者の流れ・部門間の連携・情報の流れ」などの検証を行いました。

今回は、院内の職員、35名が参加し、本番さながらの緊張感の中、皆、真剣に取り組んでいました。参加者からは、「災害対応時の流れや行動が理解できた。」、「繰り返し訓練を行っていくことが重要である。」などの意見が聞かれました。



DMAT（Disaster Medical Assistance Team） 災害派遣医療チームとは

大地震及び航空機・列車事故等の災害時に被災者の生命を守るため、被災地に迅速に駆けつけ、救急治療を行うため、厚生労働省の認めた専門的な研修・訓練を受けた災害派遣医療チームが日本DMATです。

阿蘇医療センターでは、医師2名、看護師4名、業務調整員（ロジスティックス）3名が日本DMAT隊員として登録されています。

トピックス

健康を守る婦人の会阿蘇支部総会(出前講座)

日付：6月16日(土) 場所：阿蘇青少年交流の家
6月16日(土)に国立阿蘇青少年交流の家で行われた「第54回健康を守る婦人の会阿蘇支部総会」(参加者66名)において、甲斐豊院長が「阿蘇医療圏の現状と将来への展望」「熊本地震その時阿蘇は!」と題して講演を行いました。

阿蘇医療圏の現状や当院の災害拠点病院としての機能を果たしたことなどについて説明を行いました。



職員研究発表

日付：8月4日(土) 場所：阿蘇医療センター講堂
8月4日(土)に阿蘇医療センター開院記念行事として第7回職員研究発表会を開催しました。各部署から10名が発表を行い、審査の結果、最優秀賞に看護部の佐渡由紀美看護師、優秀賞に医療技術部の佐藤千絵診療放射線技師、佐藤邦昭臨床工学技士が受賞されました。

今回、受賞した上位3名は10月27日(土)に熊本テルサで開催された第23回熊本県国保地域医療学会で本院代表として発表を行いました。



第3回 阿蘇医療センター 地域連携の会

日付：10月19日(金) 場所：ホテルサンクラウン大阿蘇
10月19日に、第3回地域連携の会を開催いたしました。地域医療連携部長である宮本信三医師が、「阿蘇で完結する急性心筋梗塞治療」をテーマに講演し、その後の意見交換会では、地域医療に関して活発な意見交換をすることが出来ました。

今後も地域住民の方々へ、安心して安全な医療を提供していくため、地域の医療・福祉機関との連携を深めてまいります。



阿蘇医療センター自衛隊ヘリ離発着訓練

日付：12月17日(月) 場所：阿蘇医療センター
阿蘇医療センターで、大雪などで道路が凍結し救急車やドクターヘリでも患者を緊急搬送できない場合を想定した、自衛隊へのヘリコプターによる搬送訓練が行われました。

高遊原分屯地から離陸した自衛隊ヘリコプターは、当院のヘリ離発着場で、着陸・離陸訓練を行いました。



シルバーヘルパー養成講習会

日付：7月13日(金) 場所：阿蘇保健福祉センター
7月13日(金)に阿蘇保健福祉センターで行われた「シルバーヘルパー養成講習会」(参加者71名)において、甲斐豊院長が「認知症って治るの?」、当院の佐藤美和がん化学療法看護認定看護師が「“がん”についてのお話」と題して講演を行いました。

がんの動向や緩和ケアの考え方、認知症の原因、手術で治る認知症の説明や「かなひろいテスト」などを行いました。



第3回市民公開講座・健康フェスタを開催しました

日付：8月4日(土) 場所：阿蘇医療センター講堂
当院のエントランスホールにおいて、健康フェスタを開催しました。

血管年齢測定や血圧脈波測定、肺機能測定、健康体操など、住民の方々の健康増進を目的とした「相談窓口」や「体験コーナー」などを開設しました。

今後も、住民の皆様の健康増進に役立つイベントを企画してまいります。



阿蘇医療センタークリスマスコンサート

日付：12月2日(日) 場所：阿蘇医療センター
今年も熊本ユースシンフォニーオーケストラ様をお招きし、クリスマスコンサートを以下のとおり開催しました。

厳しい寒さにも関わらず180名を超えるの方々にお越し頂き、盛況の内に終了することができました。

今後も当院では、患者及び市民の方々の健康・福祉増進並びに地域活性化に寄与すべく、イベントを企画・開催して参ります。



歯科口腔外科開設記念事業

日付：2月23日(土) 場所：阿蘇医療センター歯科口腔外科診察室前
これまで阿蘇圏域に開設されていなかった、歯科口腔外科が開設され、関連機関の来賓の方々並びに医療関係者をお招きして、記念式典を開催しました。

当院歯科口腔外科は、地域の歯科並びに医科の医療機関と連携を図り、口腔領域の疾患に関し、安心・安全な治療と口腔ケアを提供して参ります。



お知らせ

敷地内に路線バスの乗り入れが開始されました

平成30年10月1日より、産交バスのダイヤ改正に伴い当院敷地内（正面玄関入口付近）にバス停が設置され、路線バスの乗り入れが開始となりました。

時刻表は、九州産交バスのホームページをご確認ください。



時刻表QRコード→

歯科口腔外科の診療が開始されました

平成31年2月1日より、歯科口腔外科の診療が開始されました。

阿蘇圏域において入院管理下での手術等の診療を行っている口腔外科施設はなく、当科がその役割を担い、地域の先生方と力を合わせて地域医療の充実に貢献してまいります。

なお、当科は完全予約制で受診には紹介状が必要です。受診については、医科・歯科のかかりつけ医療機関にご相談ください。

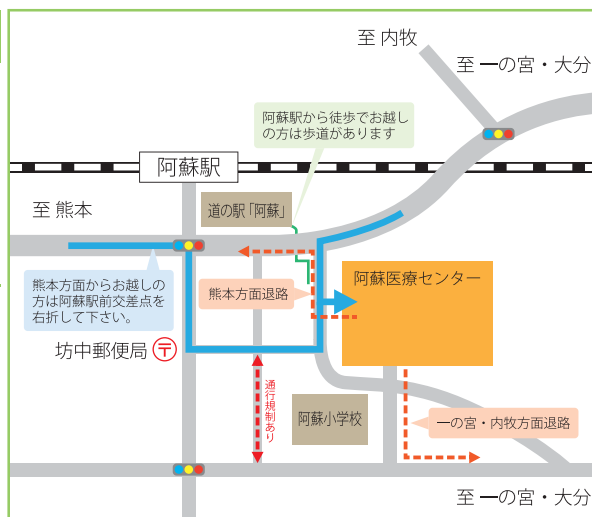
診療予約・変更・お問い合わせ

外来予約センターにお電話頂き予約や変更等についてお問い合わせください。

外来予約センター ▶ **0967-34-0319**

その他、診療や連携に関する各種お問い合わせや、相談は地域医療連携室へご連絡ください。

地域医療連携室 ▶ **0967-34-0463**



表紙について

2月1日から診療を開始した歯科口腔外科の診療ブース前で、高宗医師と加藤歯科衛生士に撮影協力頂きました。

今後、阿蘇地域における歯科口腔外科領域の重症疾患の診療が可能となります。

● 撮影／広報委員会



阿蘇医療センター

〒869-2225 熊本県阿蘇市黒川1266
TEL 0967-34-0311 (代表)
FAX 0967-34-2273
<http://www.aso-mc.jp>

